



豊前のおしごと 親子de体験隊

取材先 みかん農園「小柳農園」

豊前市在住の親子記者が、市内の様々な企業や団体等を取材した記事を掲載する同コーナー。2回目は、永井奈緒美さん・伶奈ちゃん親子です。

周防灘に面した山の斜面で元気に育つ 豊前のみかんに癒やされたひととき

今回私たち親子は、周防灘に面した山の斜面を生かしてみかんを栽培する「小柳農園」へ。取材時の8月は、摘果（てきか＝間引き）の時期。摘果や肥料となるチップ作り等を体験してきました。

“良いみかん”を育てるための「摘果」

山道を車で上り、いざ景色の良いみかん畑へ。早速「摘果」の仕方を教えてもらいました。

恐る恐る、初・摘果に親子で挑戦。枝を傷つけないようにやさしく、鈴なりに実ったみかんを間引いていきます。

その後、大きく甘く育ったみかんは、サイズ別に分けられ出荷されていきます。



▲みかんのサイズを選別する機器
▶仕上げに貼るシール



切った枝はチップにして肥料に

枝葉のすみずみまで日光が届くように、また、みかんの栄養状態を良くするために、2月中旬～3月に剪定（枝を切る作業）を行うとのこと。切った枝は、専用機器でチップにして、肥料として活用されているそうです。エコですね！



親子記者の永井奈緒美さんと伶奈ちゃん（6歳）



「収穫時期で『極早生（ごくわせ）』『早生』『中生（なかくて）』『晩生（おくて）』と分類されているんですね。勉強になりました」（奈緒美さん）、「摘果、楽しかったよ！」（伶奈ちゃん）

7月～10月上旬、まだ青い鈴なりのみかんを摘果



案内人

「摘果が終わったら、いよいよ収穫です」「甘～く育つてますよ」と、「小柳農園」の小柳鉄志さん&京子さん夫妻



▲剪定した枝は専用機器でチップに ▶チップは肥料として使用

SDGs 見つけた！

山の斜面は農産物を栽培するのに難しい土地ですが、みかんは斜面での栽培に適しており、豊前市の緑の豊かさの一役を担っています。

また、みかんの生産の過程で枯れ枝を使い、それを有機肥料に使用することは、廃棄物の再利用と山林の生物多様性に配慮した素晴らしい取組だと思えます。

温暖な気候のもと日光をたくさん浴びたおいしいみかん。それを消費者に届け喜んでいただいているお仕事は、苦勞も多いけれどやりがいもあると感じました。

取材協力 (株)ニコン日総プライム NNPシリーズSDGs連載担当 水谷洋司・角田雅信・岩崎裕子・宮川清希・二塚正明

■現在、取材を希望される企業・団体および、取材に行き記事を書いてみたいという親子記者を募集中。

ココに注目

- 注目① SDGs目標8 働きがいも 経済成長も
★おいしいみかん生産で得られる働きがい
- 注目② SDGs目標12 つくる責任 つかう責任
★廃棄物の発生防止、削減、及び再生利用
- 注目③ SDGs目標15 陸の豊かさを守ろう
★有機肥料を使った自然や生物多様性の維持

取材協力 小柳農園 (☎ 080-1783-1590)

※12月から「みかんの収穫」のお仕事をしてくれる方を募集中。

詳細は同農園（上記）か、「おしごとパレット」(☎ 0979-64-7575 / 平日9:00～17:00)へ電話で問い合わせを。

撮影 juri (Instagram @juri0_902)

※取材中の動画を「おしごとパレット」のInstagram (@oshigotopalette) で公開中

